【原　　著】

開かれた思想形成をめざす中等社会科の学習原理
―ホルト社会科第９学年「比較政治システム」の概念探求過程に着目して―

重信 謙太　桑原 敏典

The Study of Improving Teaching Strategy to Develop Children' s Value in Social Studies of Secondary School Based on Analyzing "Holt Social Studies Curriculum Grade 9 Comparative Political System"

Kenta SHIGENOBU, Toshinori KUWABARA

2014
岡山大学教師教育開発センター紀要 第４号 別冊

Reprinted from Bulletin of Center for Teacher Education and Development, Okayama University, Vol.4, March 2014

岡山大学教師教育開発センター紀要，第４号（2014），pp.46-55

【研究論文】

原　著

開かれた思想形成をめざす中等社会科の学習原理

―ホルト社会科第９学年「比較政治システム」の概念探求過程に着目して―

重信　謙太※1　桑原　敏典※1

本研究は，アメリカ合衆国で1960年頃に開発された中等社会科教材ホルト社会科カリキュラムの分析から，概念探求学習の論理を解明するものである。概念探求学習の典型として，本研究では第９学年「比較政治システム」に着目し分析を行った。その結果，この教材は，当時の最新科学とされた比較政治学の成果を取り入れながらも，生徒が自らの社会と他の社会の政治制度を比較し，最終的には価値判断を通して概念を再構成させていることが明らかとなった。政治制度の比較を通してその背後にある価値を捉えさせるという学習原理は，概念探求過程が社会諸科学の成果としての理論・法則の獲得に留まるものではないことを示している。それは，むしろ概念を活用しながら，将来の社会のあり方を構想していく学習となっているのである。本研究によって，中等社会科を科学的な社会認識形成をふまえた開かれた思想形成をめざすものとして構想する手がかりを示すことができた。

キーワード：社会科教育，概念探求，思想形成，ホルト社会科，政治学習

※１　岡山大学大学院教育学研究科

Ⅰ　はじめに―問題の所在―

本研究は，米国で1960年頃に開発された社会科学習教材であるホルト社会科（Holt Social Studies Curriculum）の分析を通して，教材に内在する概念探求の論理を解明し，開かれた思想形成のあり方を検討するものである。

社会諸科学の概念探求を行う社会科学習は，森分孝治が探求としての社会科授業を提唱して以来，多くの研究が蓄積されている。そこでは，概念探求のためにできるだけ価値を排除して，知識を吟味していくことがめざされていた。森分は，探求としての社会科授業について「個人的な感情や情緒，倫理的な判断を交えない，知的な理解をねらいとすべきである」[1]と述べている。このことからも，概念探求型の授業はできるだけ価値に踏み込まないようにしていることは明らかである。

このような社会科授業の根拠として挙げられるものが，米国で1960年頃に開発されたホルト社会科を含む新社会科のカリキュラムである。米国の新社会科は教育改革運動の中で起こったものであり，その影響をうけ当時の最新科学を組み込んだカリキュラムを構築していた。ホルト社会科も様々な視点から研究の蓄積がなされている。ホルト社会科に内在する様々な論理の解明や，社会科教育理論を説明するための例としてホルト社会科を用いる研究がこれまでになされてきた。この２タイプの研究に加えさらに，社会科教育の歴史的研究の側面からも研究がなされている[2]。

このように，これまで多様に研究が蓄積されているホルト社会科であるが，分析者によって対象とするカリキュラムが異なっていたり，カリキュラムの解釈が異なっていたりする。つまり，多様な視点から分析がなされ，様々な解釈が提案され，評価が一致していないのがホルト社会科研究の現段階での到達点なのである。このように評価が分かれているホルト社会科であるが，先行研究の分析において，社会諸科学の概念探求過程であるということは共通している。本研究では特に，社会諸科学の概念の使用が顕著に表れている第９学年「比較政治システム」に着目し，概念探求が生徒の自主的な思想形成につながる構成となっている点を明らかにしていくこととする。

Ⅱ　ホルト社会科第９学年「比較政治システム」を扱った先行研究の特質と課題

ホルト社会科は，上述の通り我が国の社会科教育学研究において研究が蓄積されており，特に「比較政

治システム」に関しては金子邦秀によって分析がなされている[3]。金子は，「比較政治システム」は比較政治学の研究を基盤とした学習として構成されており，それらが社会諸科学の内容構成を基にした科学的な社会認識形成による概念の理解をめざす社会科学科であると考察している[4]。また，ホルト社会科は生徒の探究技能の発達を重視したものであって，価値観や知識等はその過程のなかで形成，獲得されるものであるとしている。そこでは歴史学者や社会科学者が行っている研究方法が採用され，それらを生徒が経験するなかで技能を獲得するものとなる。授業においては，社会諸科学の概念を分析的質問[5]として用い，生徒に探究させるものとなっていると考察している。

金子の分析によると，ホルト社会科は歴史学者，社会科学者の研究方法を学習し，それを行うことによって科学的な認識を生徒に形成する社会科学科のカリキュラムであると言えよう。金子は，この社会科学科の特質について以下のように述べている[6]。

> すなわち，一般的に社会科の目的とされる市民的資質の育成，それに関わる態度や価値を無視しているわけではないが，社会科が限られた学校のカリキュラムの中で果たすべき固有の役割は，まず社会についての科学的な認識を保証することであると，社会科学科を支持する人々は考えている。

金子の分析によれば，社会科学科であるホルト社会科は，態度や価値よりも認識形成を中心に据えたカリキュラムである。あくまで社会諸科学を用いた科学的な認識の保障を第一に据え，認識をできるだけ精緻化していくよう構成されているということを導いているのである。

このように，金子は「比較政治システム」を社会認識の形成を目的とするカリキュラムとして考察しているが，以下の課題を指摘できる。

① 単元構成，授業構成の詳細な解明がなされていない点。

② 教育原理（価値との関連性の中でのカリキュラムのあり方）についての解明がなされていない点。

第一は，単元構成，授業構成の詳細な解明がなされていない点である。金子の分析は，全体構成における内容の配列や社会諸科学との関連性という観点からなされていた。そして，「比較政治システム」は固有の概念や探究方法を教授する分析的社会科学に基づく内容構成がとられているということを明らかにしている。各単元や授業に関しては，内容の取扱いに関しての分析はなされているものの，学習過程の中でいかにそれらが反映されているか，発問等によっていかに生徒の思考を促そうとしているかといった授業構成に関する分析はなされていない。「比較政治システム」の特質を解明するためには，内容構成の視点のみならず授業構成の視点からも詳細な分析を行うことが求められよう。

第二は，教育原理，特に価値との関連性の中でのカリキュラムのあり方についての解明がなされていない点である。金子の分析では，ホルト社会科は認識形成をめざす社会科学科であるとの考察がなされおり，そこでは態度や価値といったものは重視されるものではないとされていた。しかし，ホルト社会科の作成者であるE.フェントンは，教材の目標の一つとして価値の明確化を挙げており，価値の取り扱いに関しても言及している。詳細は後述するが，E.フェントンは，政治や経済を価値が反映されたものであると捉えており，それらを議論，評価しながら生徒が考察することを意図して作成しているのである。この点を加味すると，「比較政治システム」においても価値との関連性から再検討を行うことが求められよう。価値との関連性から捉え直すことによって，社会科学科における概念探求が従来とは異なる視点から明らかにすることができるのではないだろうか。先行研究の課題をふまえ，本研究では，全体，単元，授業を総合的に検討することで「比較政治システム」に組み込まれている概念探求の論理について解明していく。

Ⅲ　E.フェントンの構想する教育における価値の捉え方

ホルト社会科は，1960年代の新社会科の構想の中で開発されたカリキュラムで，アメリカの歴史学者であるE.フェントンが理論的な中心となって作り上げられたものである。E.フェントンは，当時における最新の社会科学の成果を反映させた社会科教育カリキュラムを構想し，それに基づいて中等段階（第９学年～第12学年）において開発を行った人物である。したがって，E.フェントンの社会科における価値の捉え方を考察し，ホルト社会科における価値との関係性をふまえた概念探求の論理の解明へとつなげたい。

教育で取り扱う価値についてE.フェントンは以下の３つに類型化している[7]。

① 行動に関する価値

② 手続上の価値

③ 実質的な価値

①の行動に関する価値は，規律やルールの実行に関する価値のことで，教室における手順を示す価値のことである。例としては，授業において教科書を

用いるときは静かにすることやクラスメートの邪魔をしないといった価値が挙げられている。②の手続き上の価値は，授業における思考の過程に関する価値のことである。例としては，批判的思考や歴史や社会科学の学習は根拠を追求する必要がある等の価値が挙げられている。つまり，手続き上の価値は，学習する方法に関連したものであると言えよう。③の実質的な価値は，人間一人ひとりが持っている価値のことである。例として，民主主義は独裁主義より望ましい等といったものが挙げられている。以上のようにE.フェントンは価値を3つに分類した上で，行動に関する価値と手続き上の価値の2つは教えるべきであると主張している[8]。

一方，実質的な価値については慎重な姿勢を見せている。E.フェントンは上述の民主主義の例や，宗教はよいもので若い人は教会に行くべきだといった例を取り上げ，それらの価値は人それぞれの持つ価値観と密接に関連しており，一方的に教授するべきではないと主張している。このことからE.フェントンは，特定の価値を子どもに注入することを危惧していると言えよう。実質的な価値についてE.フェントンは次のようにも述べている[9]。

> 一方で，私は教師たちに議論のためにこれらの問題（実質的な価値を含む問題のこと）を取り上げてもらいたい，そして常に批判的思考という枠組みの中で根拠を探りながら議論を保ってもらいたい。

つまり，実質的な価値は一方的に教師たちが教授するものではなく，子どもが議論の中で探っていくものという捉え方をしているのである。議論の中に実質的な価値を含ませるということであると言えよう。あくまでE.フェントンは実質的価値について，子どもの議論を通した価値判断において取り扱われるべきであると主張しているのである。

このように，E.フェントンは学校教育における価値について行動に関する価値や手続き上の価値を学習する必要性を述べている。加えて，実質的な価値については，一方的な価値注入にならないよう取り扱いに注意する必要があるとした上で，議論の中に組み込んで考えさせるために使用可能であることを示しているのである。

また，E.フェントンはホルト社会科カリキュラム全体を通しての目的の一つに価値の明確化を挙げている。実質的な価値は特定の価値の植え付けにならないよう配慮が求められるとしたうえで，ホルト社会科は絶えず価値を取り扱っているということを示している[10]。政治や経済に関しては，価値が反映された結果として表出したものとして捉えており，価値がそれらの根本として存在しているという考えであると言えよう。この価値の明確化をホルト社会科の目的に据えていることについて，「比較政治システム」と同様の構成を持つ「比較経済システム」を用いて以下のように説明している[11]。

> 授業において，これらの経済は価値システムを反映しているように，生徒はこれら各々の集団の経済の特質を議論し，評価する。そのコースを通して，価値の問題は公共政策を議論する全ての授業の根本にあるものである。

このことから，ホルト社会科においては，政治や経済の特質を議論し，評価を行うことによって，生徒自身が価値について思考する過程を取り入れることを意図していると言えよう。E.フェントンは人々の価値の集積として政治や経済を捉えており，それらの特質を授業で考察することにより，生徒自らの考えを問いなおさせることをねらっていると言える。

以上のような，E.フェントンの教育における価値の捉え方をふまえた上で，以降では具体的に教材の中でいかにして価値との関係を考慮しながら概念探求がなされているかについて解明していく。

Ⅳ　3つの異なる価値をもつ個性的な政治制度―全体構成―

ホルト社会科第9学年の「比較政治システム」の全体構成は，3つの異なる価値を内包し，それぞれ個性的な性質をもつ政治制度を生徒が比較を中核として吟味していく構成となっている。ここで取り上げられている政治制度は，過去の伝統やその集団の慣習に決定が大きく左右される原始的な政治制度，現代の政治制度である民主主義的な政治制度と社会主義的な政治制度の3つであり，それぞれシャイアン族，アメリカ合衆国，ソヴィエト連邦を具体例として用いている。生徒はこれら価値の異なる3つの政治制度を5つの比較政治学の概念を用いながら分析し，吟味していく構成となっている。この「比較政治システム」で使用する5つの概念については，以下のように定義されている[12]。

- 政治的な意思決定者：政治制度のルールを作り，解釈し，施行する人々のこと。
- 政治的な意思決定：政治制度がこれらのルールが作られ，施行され，そして解釈される過程のこと。

・政治的な統治機構：政治的決定を操る機構と方法のこと。
・政治文化：政治制度の一部である人々の信念，態度，価値，そして技能のこと。
・市民性：政治制度の内部にある個人によってなされる部分のこと。

これら５つの概念が比較を行う際の視点として活用され，吟味するための指標となるのである。つまり，これらの５つの概念を使用しながら生徒は３つの異なる価値をもつ政治制度を分析することとなるのである。

「比較政治システム」の全体構成を表したものが表１である。表１には各大単元，中単元等の表題を示している。大単元は６つで構成されており，大単元１で生徒はまず，分析する指標となる５つの概念の学習を行った後，まずは原始的な政治制度であるシャイアン族の分析を行う。大単元２から６で，アメリカとソヴィエトの政治制度について，学習した５つの概念を用いて分析するようになっている。大単元１の中の中単元１と２は５つの概念の獲得とそれに基づいて原始的な政治制度の分析を行うという構成となっている。そして，大単元２から６に含まれる各２つの中単元では，アメリカとソヴィエトについて大単元で示される概念を用いて分析を行っていくものとなっている。そして，大単元で示される５つの概念に対応する形で，中単元において取り扱う政治制度が示され検討がなされるという構成をとっている。このようにして，３つの異なる価値を内包する政治制度を比較しながら学習を展開していくこととなるのである。さらに各中単元の中には，３つから８つの小単元が組み込まれている。小単元は分析する事柄の特徴を示す表題が付けられていることから，最終的な考察を行うための要素がその中に示されているのである。「比較政治システム」は，単元を６の大単元，11の中単元，61の小単元といったように３つの段階に分けて重層的な構成にすることで，３つの個性的な特徴の政治制度を詳細に分析することを可能としていると言えよう。

このように「比較政治システム」の全体構成は，比較政治学の５つの概念を用いて原始的な政治制度であるシャイアン族，民主主義による政治制度であるアメリカ，社会主義による政治制度であるソヴィエトという３つの分析を行っていくものとなっていた。全体を通して，生徒が分析する内容は，政治制度とそこに内包する政治的な価値である。したがって，対象としても価値を取り扱っていると言えよう。

以上のような全体構成は，E. フェントンが従来の事実を暗記する学習から，問題を結び付けて考えたり，仮説を検証したり，自らの考察を行ったりする学習へと転換させようとしていた点とも合致するのである[13]。学習の中核は概念を用いた異なる価値をもつ個性的な政治制度の分析であり，決して概念の獲得のみをめざしているものとはなっていないのである。

Ⅴ　比較に基づく政治制度の考察過程―単元構成原理―

「比較政治システム」の大単元は，主に比較を中核として政治制度を考察する過程として構成されている。５つの概念に基づいてそれぞれ特質を明らかにしながら分析を進めていった後，アメリカとソヴィエトを比較し，２つの政治制度の共通点や差異点を考察させるよう大単元が組織されている。

取り扱う概念に基づいて構成されている５つの大単元と，具体的な学習内容を規定している中単元を取り扱う事象や人物等の具体例を明記しながら整理したものが表２である。なお，大単元１に含まれる中単元１は，概念そのものの学習となっているため，ここでは省略している。中単元２では，原始的な政治制度のシャイアン族について中単元１で獲得した５つの概念を使用しながら分析を進めていくものとなっている。そして，中単元２の最後に当たる小単元８において，原始的な政治制度の在り方についての評価を下していくという構成となっている。したがって，中単元２はこれ以降アメリカとソヴィエトを分析するための基盤として組み込まれており，概念を用いての考察の手順を学習するものになっていると言えよう。中単元３から10までは，各概念に基づいてアメリカとソヴィエトの政治制度を分析していく構成となっている。中単元11のみ，１つの中単元でアメリカとソヴィエトの市民性を比較考察するものとなっている。

具体的に，大単元４を取り上げてその構成を検討する。大単元４は，「政治的な意思決定者」という概念のもと，アメリカとソヴィエトで政治の実権を握った人物たちと，政治的な意思決定者と深く関係する権力機能についての学習が行われる。中単元７ではアメリカの意思決定者を，中単元８ではソヴィエトの意思決定者を取り上げている。そこでは主に，政治的な意思決定者としての資質やその性格，社会的背景，権力機能との関係性が取り上げられている。

表１　第９学年「比較政治システム」の全体構成

大単元１　比較政治システムへの序論
- 中単元１　ストアペンバーグ・キャンプの政治制度
  - 論点を述べる
  - 1　政治的な意思決定者たちと統治機構
  - 2　意思決定
  - 3　政治文化と市民性
  - 4　概念の使用による政治制度の分析：要約エッセイ
- 中単元２　原始的そして伝統的な政治制度
  - 論点を述べる
  - 5　政治的な意思決定者たちと統治機構：シャイアン族
  - 6　意思決定：シャイアン族
  - 7　政治文化と市民性：シャイアン族
  - 8　原始的そして伝統的な政治制度：要約エッセイ

大単元２　政治文化
- 中単元３　アメリカにおける政治文化
  - 論点を述べる
  - 9　政治文化の概念
  - 10　アメリカにおける政治的な知識
  - 11　アメリカにおける政治的な態度
  - 12　アメリカにおける政治的社会化
  - 13　今日のアメリカの若者の政治的な態度
- 中単元４　ソヴィエトにおける政治文化
  - 論点を述べる
  - 14　ツァーリズムの遺産
  - 15　ソヴィエトにおける政治的社会化
  - 16　ソヴィエトにおける政治文化

大単元３　政治的な統治機構
- 中単元５　アメリカにおける政治的な統治機構
  - 論点を述べる
  - 17　アメリカ憲法の植民地的背景
  - 18　アメリカの統治機構：連邦主義
  - 19　アメリカの統治機構：抑制と均衡
  - 20　アメリカの統治機構：個人の権利
- 中単元６　ソヴィエトにおける政治的な統治機構
  - 論点を述べる
  - 21　民主的な中央集権主義
  - 22　ソヴィエトの共産党
  - 23　ソヴィエトの公式政府
  - 24　党と政府の間のつながり

大単元４　政治的な意思決定者たち
- 中単元７　アメリカにおける意思決定者たち
  - 論点を述べる
  - 25　政治的意思決定者たちの社会的な背景
  - 26　アメリカ大統領の社会的な背景
  - 27　選ばれること：政党の役割
  - 28　選ばれること：利益集団の役割
  - 29　どのように黒人女性は国会に達したのか：シャーリー・チザムの場合
  - 30　支持の獲得と維持：ウォルター・ヒッケルの場合
  - 31　地方レベルでの権力エリート
  - 32　アメリカの政治制度における変化しつつある指導者たち
- 中単元８　ソヴィエトにおける意思決定者たち
  - 論点を述べる
  - 33　帝政ロシアにおける政治的指導者たち
  - 34　指導者になる：政党
  - 35　ソヴィエトの政治的な幹部の社会的な背景
  - 36　ソヴィエト最高会議における選ばれた官吏になること
  - 37　ソヴィエトの政治制度における変化しつつある指導者たち
  - 38　２人のソヴィエトの指導者:ブレジネフとコスイギン
  - 39　ある党の性格：官僚（第１部）
  - 40　ある党の性格：官僚（第２部）

大単元５　政治的な意思決定
- 中単元９　アメリカにおける政治的な意思決定
  - 論点を述べる
  - 41　カンボジア：大統領が決定を行う
  - 42　カンボジア：共和国の反応
  - 43　メディアの役割
  - 44　カンボジア：議会の反応
  - 45　ベトナムについての意思決定：大統領と上院
  - 46　意思決定：幹部と官僚
  - 47　意思決定：裁判官
  - 48　意思決定：その過程はどのくらい理性的か
- 中単元 10　ソヴィエトにおける意思決定
  - 論点を述べる
  - 49　チェコスロバキアへの侵入
  - 50　チェコスロバキアへの侵入の決定
  - 51　ソヴィエト最高会議における意思決定
  - 52　ソヴィエトの裁判制度

大単元６　市民性
- 中単元 11　アメリカとソヴィエトにおける市民性
  - 論点を述べる
  - 53　市民性の概念
  - 54　アメリカにおける政治的な情報の獲得
  - 55　ソヴィエトにおける政治的な情報の獲得
  - 56　市民性と投票：アメリカとソヴィエト
  - 57　異議を唱える権利：アメリカにおける異議
  - 58　異議を唱える権利：ソヴィエトにおける異議
  - 59　異議を唱える権利：アメリカにおける疎外
  - 60　異議を唱える権利：ソヴィエトにおける疎外
  - 61　市民的不服従

(Holt Social Studies Curriculum, *COMPARATIVE POLITICAL SYSTEM An Inquiry Approach,* Holt, Rinehart and Winston, Icn., 1973 を基に筆者作成.)

表２　「比較政治システム」の単元分析

過程	内容構成		具体的な学習内容					
	概念	構成要素	シャイアン族:原始的な政治制度		アメリカ合衆国:民主主義的な政治制度		ソヴィエト社会主義共和国連邦:社会主義的な政治制度	
概念に基づく分析	政治文化	国民の態度（偏狭型，従属型，参加型）国民の価値観	中単元2	7　シャイアン族の習慣	中単元3	10　アメリカ国民の政治問題への関心（選挙） 11　国民の政治に対する考え方 12　政治的社会化（政治習慣の形成，所属集団，家族の影響） 13　若者の政治意識の現状	14　ロシア人の特性（小作農）と政治への関心 15　政治的社会化の教育 16　ロシア人の関心と投票行動	中単元4
比較考察					16　アメリカとソヴィエトの政治文化，政治的社会化の比較			
概念に基づく分析	政治的な統治機構	イデオロギー統治方法		5　統治機構と生活との関わり	中単元5	17　アメリカ植民地における統治機構のあり方，歴史 17　憲法を軸とした政治機構 18　連邦主義と統治機構との関連性，基盤としての憲法	21　民主的な中央集権のあり方 22　ソヴィエト共産党の特質とその機能 23　ソヴィエト憲法と統治機構の関連	中単元6
		統治の関係性				19　三権分立のあり方 20　権利章典から見る個人の権利	24　政党と政府の関連（共産党とソヴィエト政府）	
比較考察					24　アメリカとソヴィエトの統治機構（政党と政府の関係性）の比較			
概念に基づく分析	政治的な意思決定者	背景性格と資質		5　指導者の来歴と性格（ハイ・バックド・ウルフ）	中単元7	25　政治的な意思決定者の傾向（職歴，学歴，宗教） 26　大統領の資質（望まれる９つのもの） 29　黒人女性の政治参加（チャーリー・チザムの歩み） 30　大統領と閣僚の関係（ウォルター・ヒッケル） 31　地方における権力者（ジェームズ・トリート） 32　政治制度と指導者（ケネディからジョンソンへの移行）	33　政治的指導者としてのロシア皇帝（ニコラス２世） 34　ソヴィエト指導者の歴史とその特質（共産党の指導力） 35　政治的な意思決定者の傾向（職歴，学歴） 36　ソヴィエトの選挙の様子 37　新しい時代の到来と指導者（フルシチョフ） 38　ソヴィエト指導者の性格（ブレジネフ，コスイギン）	中単元8
		権力機能				27　政党の主要な機能（大統領との関係） 28　利益集団の機能（政党との違い，与える影響力）	39　官僚の機能（チェフロプの性格） 40　官僚の機能（チェフロプの仕事）	
比較考察					40　アメリカ大統領とブレジネフ，コスイギン（ソヴィエト指導者）の比較			
概念に基づく分析	政治的な意思決定	決定の主体		6　部族の長による意思決定	中単元9	41　カンボジアについての大統領の意思決定（リチャード・ニクソン大統領）	49　チェコスロバキア侵攻直前の様子 50　チェコスロバキア侵攻の決定（少数のエリート）	中単元10
		決定に対する反応		会議における民主的な決定の様子		42　大統領の決定に対するアメリカ国民の反応 43　メディアの役割（ニクソンの決定に対するメディアの論評） 44　大統領の決定に対する議会の反応 45　ベトナムについての意思決定（大統領と議会）	51　ソヴィエト議会における意思決定 52　ソヴィエトの裁判制度（シニャフスキー，ダニエル），公平な裁判の試み	
		決定の方略		政治における単純な意思決定過程		46　幹部や官僚が行う意思決定 47　裁判官が行う意思決定 48　公的な政策問題に対する意思決定の手順		

評価					52　経済的な意思決定についてソヴィエトの風刺画を基に分析		
概念に基づく分析	市民性			中単元11	53　市民性の概念		中単元11
		情報のあり方			54　アメリカにおける情報の獲得	55　ソヴィエトにおける情報の管理	
		政治参加			56　アメリカとソヴィエトの投票行動		
		権利	7　シャイアン族における権利		57　異議を唱える権利（アメリカ） 59　アメリカにおける政治的疎外（黒人）	58　異議を唱える権利（ソヴィエト） 60　ソヴィエトにおける政治的疎外（ユダヤ人）	
					61　市民の不服従（トミー・ロッド）		
議論					61　市民の自由に関する議論		
評価			8　原始的な政治制度のあり方				

※　表中の数字は小単元の番号を表わしている。学習内容における（）には取り扱われる事象，人物を明記している。（Holt Social Studies Curriculum, *COMPARATIVE POLITICAL SYSTEM An Inquiry Approach,* Holt, Rinehart and Winston, Icn., 1973. 及び Holt Social Studies Curriculum, *Teacher's Guide for COMPARATIVE POLITICAL SYSTEM An Inquiry Approach,* Holt, Rinehart and Winston, Icn., 1973.より筆者作成。）

これら政治的意思決定者という概念の構成要素について，具体的に人物を取り上げながら学習が展開される。教科書や教師が配布するハンドアウト等から，人物についての考察を加えていくといった構成がなされている。2つの中単元を通して，両国の政治的な指導者となった人物たちの職歴，学歴等の分析からその政治的な意思決定者の傾向を明らかにしたり，意思決定者を取り巻く周辺の集団の機能について検討したりといった学習が組み込まれているのである。そして，分析をふまえた上で，最終的にアメリカ大統領とソヴィエトの指導者（ブレジネフ，コスイギン）を比較しながら政治的意思決定者についての考察が行われ大単元4は終結する。

以上のような単元構成は，2から6の5つの大単元におおよそ共通するものとなっている。「比較政治システム」では，概念を構成する要素についてアメリカ，ソヴィエト両国の事例から検討することで政治制度の基底にある価値を明確にし，最終的に両国の比較をすることで考察を行うという過程として単元構成が組織されているのである。

Ⅵ　価値判断を通した概念の再構成―授業構成原理―

「比較政治システム」では，各中単元の中に小単元が複数組み込まれており，それら一つ一つが授業として組織されている。上述の通り，単元構成は主に概念を用いた分析と，比較を通した考察を行うものとなっており，これらを反映させた形で授業も構成されている。授業構成は，概念についての学習をし，対象とする政治制度を分析し比較考察を行いながら，価値判断を通して概念の再構成を行う過程として組織されている。

ここでは，この原理が典型的に表れている大単元3の小単元16「ソヴィエトにおける政治文化」を取り上げて具体的に検討する。小単元16の授業について教師の指示・発問や予想される反応や獲得させたい知識等を整理し，授業過程をまとめたものが表3である。小単元16では，ソヴィエトの社会集団についての読み物やソヴィエトの政治を風刺した漫画を分析し，アメリカとの比較を行いながら考察を進めていくといった展開となっている。授業過程は表3にも示す通りである。まず，導入部の概念を構成する要素の獲得段階では，政治文化の3つのタイプである偏狭型，従属型，参加型という要素を獲得し，これに基づいてソヴィエトの諸集団（小作農・労働者・知識人・政治的エリート）がどの要素に該当するかを生徒に調査させている。次に，展開部の概念の構成要素を基盤とした政治制度の分析段階では，ソヴィエトの政治文化を表している資料を検討しながら政治制度の分析をさせている。特に，小単元16ではソヴィエトの政治制度のあり様を描いている風刺漫画を生徒に提示し，その絵が何を意味しているかについて検討する過程が組み込まれている。この過程で生徒が自由に考えを巡らせ，生徒なりの分析を進めることによってソヴィエトの政治文化についての理解をはかるものとなっている。そして，終結部の比較を用いた概念の考察段階では，これまでに学習しているアメリカの政治文化とソヴィエトの政治文化を比較させ，政治文化と若者の政治的社会化に関す

表３　小単元９「ソヴィエトの政治文化」の学習過程

過程	教師による指示・発問	学習過程	予想される生徒の反応・獲得させたい知識
導入　概念を構成する要素の獲得	○教科書 44，45 ページの政治文化の３つのタイプを確認し，その特質を読み取ってみましょう。	T：指示する P：読み取る	○政治文化の３つのタイプ ＜偏狭型＞自国や政府について何も知らず，そのため政治について何も考えない。 ＜従属型＞政府の活動は知っているが，投票等の参加は行わず，受け身な関係性。 ＜参加型＞投票，ロビー活動，抗議等に積極的に参加し，活動的な一員として自らを位置付けている。
	○クラスを４つのグループに分けましょう。各々のグループは，ソヴィエトで働いている４つの集団（小作農・労働者・知識人・政治的エリート）のうち１つを選んで，その特性に関する報告書を，政治文化の観点から作成し，発表して下さい。	T：指示する P：報告する	○＜小作農＞他の集団以上に偏狭で従属的な精神を持っていて，家族等小さい集団に対して結びつきが強い傾向がある。 ＜労働者＞小作農よりは偏狭型ではない。加えて，小作農よりも国や統治機構に関しての情報を持っている。 ＜知識人＞偏狭型ではなく，情報も持っているが，政治的決定に影響は与えない。 ＜政治的エリート＞偏狭な特質は全く持っておらず，多くは共産党に入り，政治に真の意味で参加している。
展開　概念の構成要素を基盤した政治制度の分析	○ソヴィエトの政治文化は，どのような点においてアメリカの政治文化と異なっていますか。	T：発問する P：答える	○ソヴィエトの人々の多くはエリートが行った決定を承認し，実行するだけであり，参加はしているが，エリートに従属したものとなっていることがアメリカと異なっている。
	○ソヴィエトにおいて政治文化はなぜ成長したのですか。考えを出し合い，話し合って下さい。	T：発問する P：話し合う	○（子どもは各々が考えたソヴィエト政治文化の成長に関して多様な考えを出し合う。）
	○教科書 84 ページの風刺漫画を開きましょう。彼らは政治的エリートの決定を非難していますか。もしそうならば，どのように非難していますか。	T：発問する P：答える	○（ソヴィエトは新技術の開発のために多くの犠牲を払っている。人々は過度な労働を強いられている。人々は単純作業をひたすら繰り返すことを行っている。作業効率は良くない。等様々な解答がされると予想される。）
終結　比較を用いた概念の考察	○大単元２政治文化の学習をふまえて，アメリカとソヴィエトの政治文化を比較したり，相違をみつけたりして，図表を作りあげて下さい。	T：指示する P：報告する	○アメリカは政治に関心がある人が多く，新聞等のメディアから情報も収集することができる。加えて，アメリカ人は政治について話す頻度も高く参加意識が高い。一方，ソヴィエトの人々は，一部の知識人や政治的エリートを除いて情報が不足しており，したがって偏狭型や従属型の政治文化を構成している。
	○読み物３はソヴィエトの若い集団の活動を描いています。これを読んでください。 ○以前に学習したアメリカの若者集団と比較して，これら２つの国の若者集団の社会化の様子を比較し，報告してください。	T：指示する P：読む T：指示する P：報告する	○アメリカの若者は，政治の参加者としての態度や技術を家庭，学校，職場等で身につけている。そのため，政治的，社会的な問題について子どもが学校で話す機会が多くなる。一方，ソヴィエトの若者は，共産主義者によって早期教育をうける。厳しい労働の結果としての成功を描き，社会主義国家のあり方の学習を受け，その影響を受ける。

（Holt Social Studies Curriculum, *Teacher's Guide for COMPARATIVE POLITICAL SYSTEMS An Inquiry Approach*, Holt, Rinehart and Winston, Inc., 1973, pp.26-31.を基に筆者作成。）

る考察を行わせる。ここで考察をする際の中核となるのが，政治文化という概念を構成する国民の３つの態度（偏狭，従属，参加）と各々の国民が持っている価値観である。これら学習した知識を活用して，アメリカとソヴィエトの比較を行い，共通点と差異点を明確にしていく。こうして，生徒は政治文化の

概念について考察を行うことができるのである。

以上のように，小単元 16 では，政治文化の 3 つのタイプを確認させた上で，それに基づいてソヴィエトの社会集団を分析させ，最終的にはアメリカとソヴィエトを比較しながら考察を行うよう授業が構成されていた。授業構成は，導入で獲得した概念を用いて，政治制度の理解を図り，加えて制度の背後にある社会のあり方に関して資料を使用し，その価値を考察する過程となっている。このように授業を組織することで，諸資料に基づいて自らの考えを出し合い，相互に吟味していくといった判断や議論の過程を通して，獲得した概念を再構成することができるのである。

Ⅶ 「比較政治システム」における概念探求過程の特質と課題

ホルト社会科の「比較政治システム」は，3 つの異なる個性的な特質がある政治制度について，比較政治学の学問成果から抽出した 5 つの概念を用いながら考察を行うものであった。特に，アメリカとソヴィエトに関しては中単元ごとに生徒に比較をさせ，その共通点と差異点を明確にさせるという構成となっていた。このことからホルト社会科は，中単元 1 で獲得した 5 つの概念をそれ以降の中単元において，分析の枠組みとして活用しながら政治制度についての検討を行わせていくものであると言えよう。加えて，全体を通して取り扱う内容，生徒が分析する対象は，各政治制度とその社会の理想像であった。つまり，導き出された学問成果を生徒が活用して議論を行い，自らが考察，評価していくことによって，価値を捉え直す構成となっているのである。決して，比較政治学の当時最新とされる学問成果としての知識の獲得のみをめざしているわけではないのである。

単元構成，授業構成で示した通り，「比較政治システム」は 3 つの政治制度の分析に加え，相互の比較検討が中核となっている。中単元 3 以降では，アメリカとソヴィエトを終結部において比較に基づいた考察が行われている。この比較考察は，ホルト社会科を教材として使用する生徒にとって，自国であるアメリカを軸としてシャイアン族，そしてソヴィエトとの対比によって明確化していく過程として組織されていると言える。5 つの概念を基に比較することによって，自国の政治制度について相対化が図られ，その特質を認識することができるのである。以上のように「比較政治システム」の学習を通して形成される認識を整理すると図 1 のようになる。5 つの概念を枠組みとして比較を通して考察することによって，自国であるアメリカの政治システムに関する認識が形成される。特に，ソヴィエトとの比較によって民主主義国としてのアメリカの特質を解明することを可能にしている。また，政治文化や統治機構の学習からアメリカ政治の現状について検討し，次に政治的な意思決定者と意思決定の学習からアメリカ政治の指導者としての資質について検討し，そして市民性の学習から国民としてのあり方を検討している。この全体を通しての編成は，常にアメリカの国家とは何か，アメリカ国民とは何かという問いを生徒に投げかけているものであると言える。つまり，全体を通して，アメリカ合衆国国民としてのアイデンティティを形成する構成となっており，思想形成にも寄与していると言える。しかし，この点に関しては課題も含まれている。それは，あくまで「比較政治システム」はアメリカ国民としてのアイデンティティの形成がなされているため，比較対象となる他 2 つの政治制度に対して，自国の優位性を構築するものとなっている点である。比較を通して差異点を解明し，自国の特質について理解することは可能である。しかし，比較の軸は自国であるアメリカであり，必ずしも中立的な立場から分析がなされているとは言えないのである。この点は，教材自体に内包する課題であると言えよう。

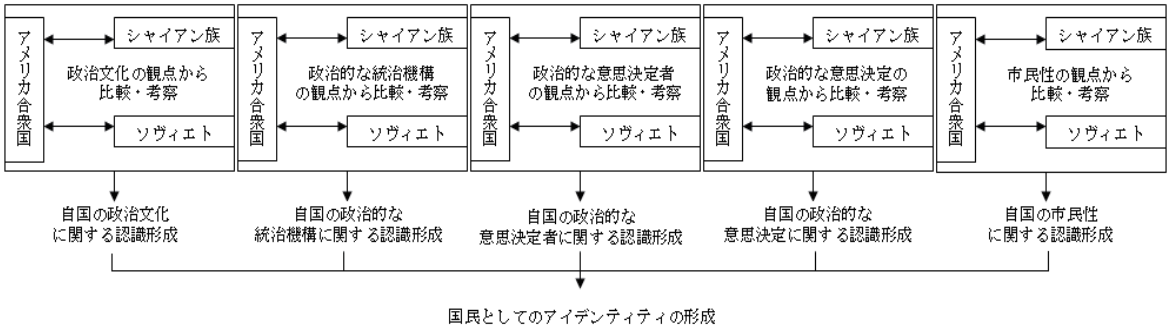

図 1 「比較政治システム」を通して形成される国民としてのアイデンティティ（筆者作成）

Ⅷ　おわりに―本研究の成果―

本研究では，ホルト社会科第９学年「比較政治システム」の概念探求過程に着目し分析を行うことによって，開かれた思想形成をめざす社会科学習のあり方を明らかにした。比較政治学の学問成果から抽出した５つの概念を用い，それらを活用しながら比較を通して自国を相対化することによって特質を明らかにし，考察を行い概念の再構成を行う過程となっていた。このような「比較政治システム」の構成は，価値との関連性という側面から捉え直すことにより，概念探求が，価値を排除しながら概念の獲得をめざすものであるという捉え方よりも，むしろ価値をふまえてそれを活用し，比較等により考察することで再構成し，国民としての資質形成を生徒に促すものであると言える。概念をふまえた上で，社会の評価を行う学習は，より開かれた形で生徒の思想形成に寄与するものと言えよう。

【註】

１）森分孝治『社会科授業構成の理論と方法』明治図書，1978 年，p.85.

２）小田泰司「ホルト社会科の成立過程―歴史教育における社会諸科学の導入―」日本教科教育学会誌　第 25 巻第１号，2002 年，pp.41-50.

３）「比較政治システム」に関しては，金子邦秀『アメリカ新社会科の研究』風間書房，1995 年，p.45-84. において分析がなされている。

４）金子は，ホルト社会科を社会についての科学的な認識を子どもたちに獲得させることを目的とする社会科学科であると位置づけている。

５）分析的質問とは，「生徒に概念を探求させるために用いる質問のことである」とフェントンは述べている。これは，概念は暗記するものではなく，生徒が学習を通して獲得するものとしているフェントンの考えが反映されているものである。

６）金子，前掲書３），p.294.

７）Fenton, E, Teaching THE NEW SOCIAL STUDIES in Secondary Schools AN INDUCTIVE APPROACH, Holt, Rinehart and Winston, INC., 1966, p.42.

８）ibid., p.42.

９）ibid., p.44.（）部分は発表者が書き加えた。

10）Holt Social Studies Curriculum, Teacher's Guide for COMPARATIVE POLITICAL SYSTEMS An Inquiry Approach, Holt, Rinehart and Winston, Inc., 1973, pp.xi-xv.

11）ibid., p.xi.

12）Holt Social Studies Curriculum, COMPARATIVE POLITICAL SYSTEM An Inquiry Approach, Holt, Rinehart and Winston, Icn., 1973, pp.1-2.

13）ibid.,p.xiv.

Title　The Study of Improving Teaching Strategy to Develop Children's Value in Social Studies of Secondary School

Subtitle　Based on Analyzing "Holt Social Studies Curriculum Grade 9 Comparative Political System"

Author　Kenta SHIGENOBU*1, Co-Author Toshinori KUWABARA*1

Abstract:　The purpose of this paper is to clarify the strategy of teaching concept through analyzing "Holt Social Studies Curriculum" in the United States in about 1960. In this paper I analyzed "Comparative Political System" of the grade 9 which shows the use of the concept conspicuously. As a result, this materials aimed to compare own society with other society based on the political science and gave opportunities to reconstitute students value by decision making in a class.

Keywords:　Social Studies Education, Inquiry of the Concept, Developing Children's Value, Holt Social Studies Curriculum, Political Learning

*1 Graduate Course of Education Okayama University